

寺戸大塚古墳

てらどおおつか こぶん

副葬品は知っぴん



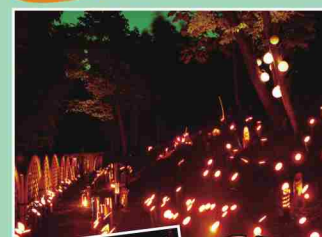
歴史絵巻のロマン

竹の径

全国に良質な竹の子の産地として知られている向日丘陵の竹林。「竹の径」は、この竹林に整備された全長1800mの竹林道です。竹垣をはじめ、古墳垣やかぐや垣など、オリジナルを含む8種類の竹垣がきれいに並びます。



イベントガイド かぐやのタベ



平成14年から毎年10月下旬に行われる「竹の径・かぐやのタベ」では、水ろうそくを浮かべた4000本以上の竹行灯が「竹の径」を照らします。当日は、楽器の音色がたよう中、夕闇深まる竹林がろうそくの優しい光りに浮かび上がります。



幻想的な雰囲気につつまれるよ!



発行 向日市教育委員会

〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20番地 TEL. 075-931-1111

埴輪って?

古墳を飾るためにつくられた土製の焼き物のことだよ!



埴輪は、3世紀後半から6世紀後半にかけてつくられた焼き物です。古墳時代の年代の目盛りとなるとともに、当時の衣服・髪型・武具・農具・建築様式など、有力者の生活を復元できる貴重な考古資料です。

円筒埴輪

円筒形の埴輪で、普通円筒埴輪のほか、特殊器台形埴輪、壺形埴輪、朝顔形埴輪などがあります。墳丘斜面の平坦部や墳頂に並びます。埴輪は古墳の重要な場所を囲い込んでいることから、聖域を区画する役割をもっていたと考えられます。



朝顔形埴輪

家形埴輪

古墳時代の建造物を表現したもので、首長霊のよりどころ、やどるところとして、その古墳の最も重要な場所に置かれました。

器財埴輪

武器・武具や威儀の具と称される器財を表現したものです。武器や武具は、その防御や攻撃といった機能から、悪霊や災いの侵入を防ぐ役割を持っていると考えられています。

形象埴輪

動物埴輪

古墳時代の動物を表現したものです。なかでも儀式用に飾られた馬形埴輪の出土が多く、馬をもつこと自体が、財力と権力の象徴であったことがわかります。

人物埴輪

古代の人々を表現したもので、祭祀を司る巫女をはじめ、王、貴人、武人、農夫などがあります。特に、古墳の前での儀式に直接かわる巫女は、重要な位置をしめています。



人物埴輪(長岡京市・舞塚古墳)

大きく分けると2種類になるのね。



これが寺戸大塚古墳だ!



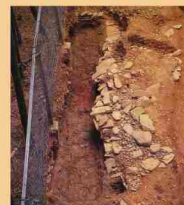
寺戸大塚古墳って?

寺戸町芝山にある古墳時代前期(4世紀前半)の前方後円墳です。第6回陽小学校から竹林公園へ続く竹林の西側に雑木林があります。ここが古墳の後円部です。前方部は竹林として利用されています。墳丘斜面には葺石が施され、墳裾、墳頂各段の平面には、埴輪が大量に並べられていました。

この古墳で出土した埴輪は、前期古墳の基準資料とされています。

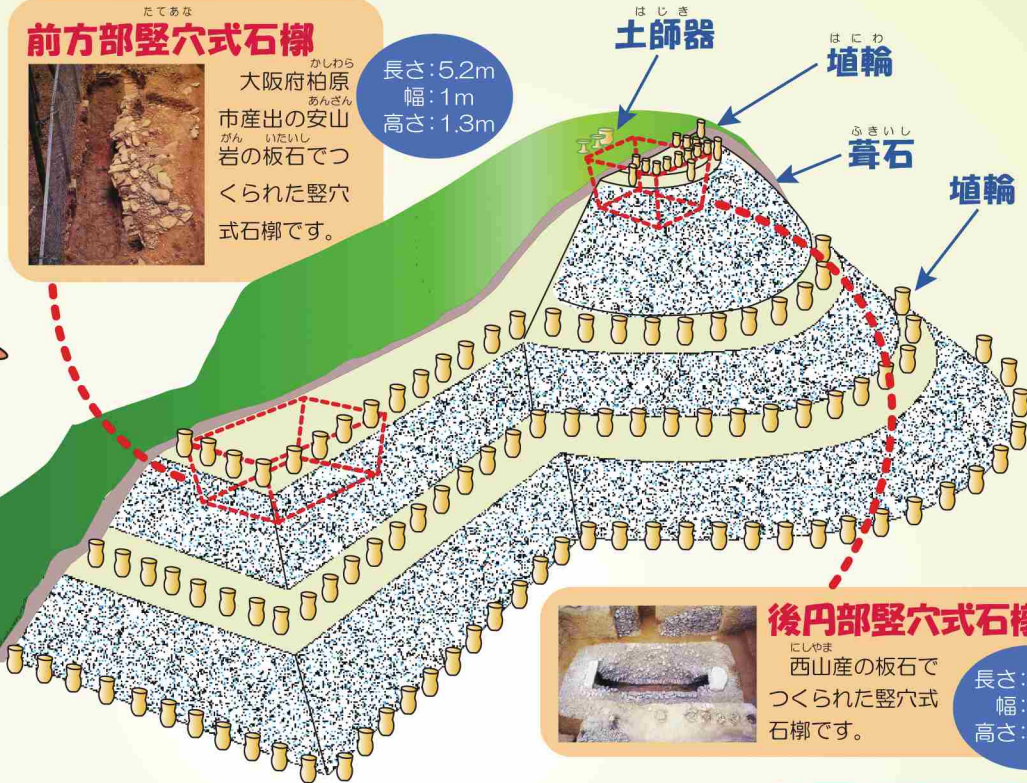


前方部 竪穴式石槨



大阪府柏原市産の安山岩の板石でつくられた竪穴式石槨です。

長さ: 5.2m
幅: 1m
高さ: 1.3m



2つの石槨



この古墳では、後円部と前方部に一室ずつ埋葬施設が発見されました。一般的に、後円部は埋葬の中心的な場ですが、前方部の施設にも後円部と同等の副葬品が納められていました。前方部に葬られた人物は、新首長の地位は継承しなかったものの、手厚く葬られるに値する地位の高い人物だったのではないのでしょうか。



後円部 竪穴式石槨

西山産の板石でつくられた竪穴式石槨です。

長さ: 5.6m
幅: 0.8m
高さ: 1.6m



「謎の鏡」?

副葬品

何を納めていたの?



古墳の中には被葬者とともに様々な品が納められていました。これらは副葬品と呼ばれ、生活必需品だけでなく、装身具や武具もありました。

中でも鏡・腕輪・刀剣などは、近畿地方の大王から各地の首長に地位を保証するあかしとして配られたもので、権威を象徴する品々でした。それらは時代によって、種類や内容が変化していきました。



埴製合子



銅鏡

前方部の出土品

- ・浮彫式獣帯鏡・三角縁獣文帯三神三獣鏡・方格規矩四神鏡
- ・琴柱形石製品・紡錘車形石製品
- ・管玉・刀剣・槍・銅鏃・鉄鏃
- ・鉄斧・鉄鎌



▲琴柱形・紡錘車形石製品・管玉

後円部の出土品

- ・三角縁神獣鏡
- ・合子・勾玉
- ・石剣・管玉



▲石剣

勾玉は古代から「魔除け・幸運を授かるもの」とされてきたんだ!

三角縁神獣鏡

鏡の背面に神や獣を描き、縁の断面が三角形状になるものを三角縁神獣鏡と呼んでいます。主な文様となる神や獣に中国の鏡の文様と一致するものがあることなどから、中国製と考えられていますが、中国での出土例がないので、日本列島で製作されたという意見もあります。また日本(倭国)へ送るために特別につくられた鏡ともいわれています。

三角縁神獣鏡は、各地の古墳から合わせて400面以上出土していますが、その製作地や用途は不明で、さらに卑弥呼に贈られた鏡ではないかとの説もあり「謎の鏡」として今も議論されています。



わこく